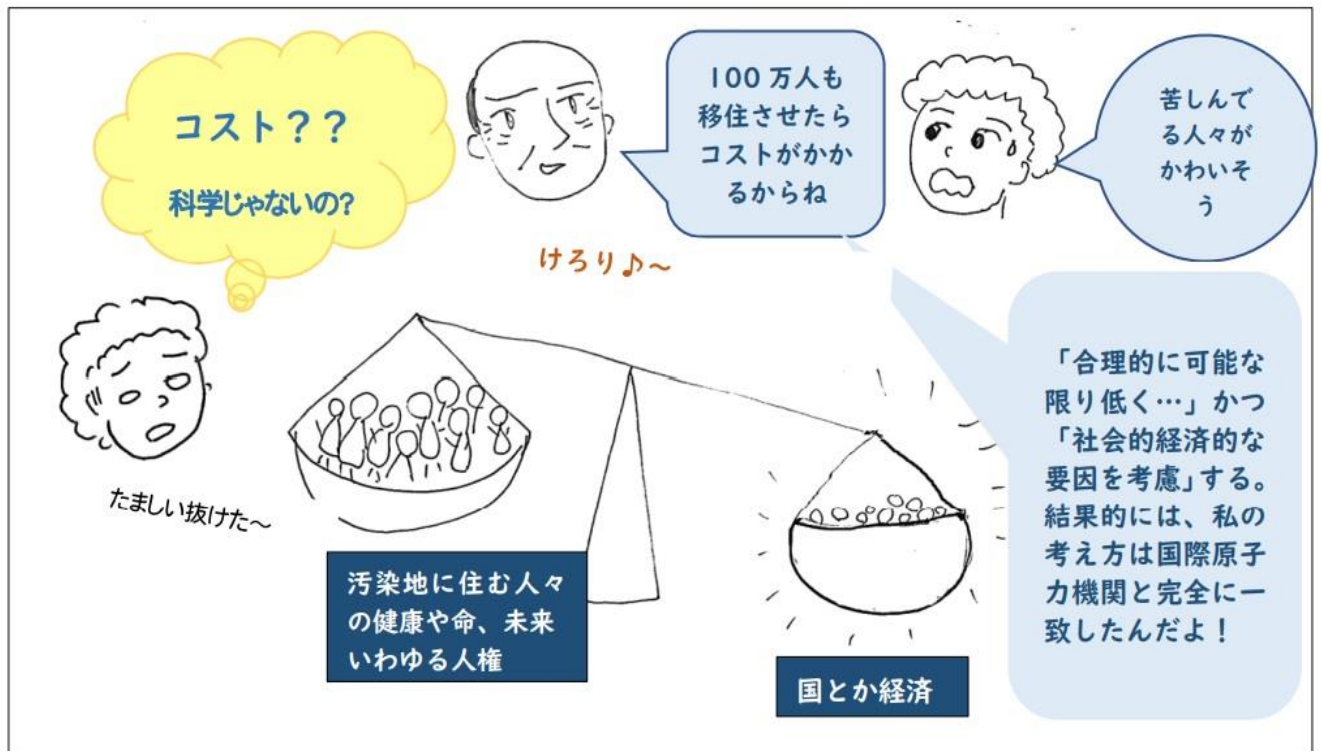




ひんぱんに起こる鼻血やめまい、流産や死産、今まで健康だった子どもたちが虚弱になり、小児甲状腺がんなど目に見える被害が起こっていた。人々は移住や避難を訴えるのは当然のこと。



ICRP が 2007 年に出した勧告で特に重視しているのが、「防護の最適化」という考え方です。「これ以上放射線量が低ければ、確率的影響（がんや遺伝的影響）のリスクがない」という「しきい値」は存在せず、「どれだけ線量が低くてもその線量に応じたリスクが存在する」という考え方（LNT モデル(1)）にもとづいて、合理的に可能な限り（ALARA と呼びます(2)）被ばく線量を低減しようとするのが、「最適化」の考え方の原則です。ただし、ALARA には「経済的、社会的要因を考慮して」という条件がついています。つまり、できるだけ被ばく線量は低く抑えようと努力する一方で、低い被ばく線量をさらに最小化しようという努力が、その効果に対して不釣り合いに大きな費用や制約、犠牲を伴う場合には、よしとしないということです。

https://www.kantei.go.jp/saigai/senmonka_g36.html（首相官邸ホームページ）